

日本国際経済学会関西支部総会報告要旨

2006.6.10

(於：近畿大学)

『製造業立地の分散化とそれに伴う地域成長形態の変容』

アメリカのMSA分解アプローチ

玉 井 敬 人

大阪府立大学 客員研究員

【報告要旨】

Robert Barro などによる経済成長に関する分析では当初、個人所得・賃金水準が高い富裕地域に比して貧困地域が急速に成長し、それら地域間での格差が縮小していくとする収束性が検証されるとしている。

都市経済学分野において、地域成長の決定要因分析として頻繁に引用される Glaeser et al. [1992, 1995]では、従属変数に労働者数の成長率を設定し¹、独立変数に期首の当該労働者数の対数値などを当てて分析している。この分析により、労働者に関する地域間での収束性を検証している。すなわち、産業(労働者)の分散化傾向が遠望できる。

分散化・郊外化に関する研究は、人口の郊外化が雇用の郊外化をもたらすのか、あるいは雇用の郊外化が人口の郊外化をもたらすのかという、グレンジャー因果性に対するものが主流であった²。

収束性をもとにした地域経済成長に関する実証分析は、パネルデータ分析や GMM によるものなど、推定手法が高度化してきているが、特に製造業の分散化が地域経済に及ぼす影響に関しての分析は不足している。また、人口・雇用の郊外化に関する分析においても、その郊外化・分散化に伴っていかに地域産業構造が変化するのか、またその構造変化に合わせて地域経済がどのように反応するのかについては寡黙である。本報告ではその点を実証分析してみたい。

産業構成比の地域間での差異が資本・労働比率の違いを生み、それが例えば個人所得格差の原因となる。地域経済の特徴を分析する場合、地域間格差がどのように推移しているのかにも注目する必要がある。報告では大都市圏内部における経済格差がどのように推移

¹ 都市経済学分野では地域成長を示す指標として、人口や労働者数が当てられることがある。

² 例えば、Carlino [1985]では製造業の郊外化が人口と製造業以外の各産業の非集中化をもたらしたとしているが、Thurston and Yezer [1994]では、居住人口の郊外化は所得の増大や、輸送・通信・公共事業産業やサービス産業における雇用の郊外化によって高められたのに対して、製造業は人口の分散化を妨げたことを分析している。

しているのかマイル尺度を用いて分析する。またその格差の要因はなにかを Williamson [1965]でなされる手法を用いて分析する。

報告順序としてはまず、産業労働者、特に製造業労働者の分散化について分析する。つぎに、大都市圏内部における産業構造がどのように変化してきているのか検証する。この検証により、大都市圏内部において産業構造の変化について明確な差異が出たので、製造業の拡大・縮小が地域経済にとってどのような影響を及ぼすのか実証分析する。そして、大都市圏内部での賃金格差の分析を行う。

【報告に当たって】

分析対象である大都市統計圏とは何か、それはアメリカにおいてどのような場所に分布しているのかの説明から始める。本報告では大都市統計圏を構成する各郡を中心郡(*central counties*)と周辺郡(*outlying counties*)に分解した上で、大都市圏内部での経済環境の変化について分析するものである。

【参考文献】

- 1) Carlino, G. A. [1985], "Declining City Productivity and the Growth of Rural Regions: A Test of Alternative Explanations," *Journal of Urban Economics*, Vol. 18, pp. 11-27.
- 2) Glaeser, E. L., H. D. Kallal, J. A. Scheinkman and A. Schleifer [1992], "Growth in Cities," *Journal of Political Economy*, Vol.100, pp.1126-1152.
- 3) Glaeser, E. L., J. A. Scheinkman and A. Schleifer [1995], "Economic Growth in a Cross-section of Cities," *Journal of Monetary Economics*, Vol.36, pp.117-143.
- 4) Thurston, L. and A. M. J. Yezer [1994], "Causality in the Suburbanization of Population and Employment," *Journal of Urban Economics*, Vol. 35, pp. 105-118.
- 5) Williamson, J. G. [1965], "Regional Inequality and the Process of National Development: A Description of the Patterns," *Economic Development and Cultural Change*, Vol. 13, pp. 3-45.